

学校統合のメリット・デメリット

1 学校統合のメリット

(1) 複数の学級を編制できるメリット

- ・ 生徒同士の間関係や生徒と教員との間関係に配慮した学級編制ができる。
- ・ 生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ・ 新たな間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ・ クラス替えを契機として生徒が意欲を新たにすることができる。
- ・ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ・ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができる。
- ・ 指導上課題のある生徒を各学級に分けることにより、きめ細やかな指導ができる。

(2) 教員配置数が増えることによるメリット

- ・ 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置や、それらを生かした指導の充実が可能となる。
- ・ 生徒の良さが多面的に評価され、多様な価値観に触れさせることができる。
- ・ ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることができる。
- ・ 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が軽くなり、校内研修の時間が十分に確保できる。
- ・ 教員同士が切磋琢磨する環境を作ることができ、指導技術の相互伝達ができる。
- ・ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することができる。
- ・ 免許外指導の教科が減少する。
- ・ クラブ活動や部活動の指導者確保ができる。

(3) 学校全体の生徒数や学級の生徒数が増えることによるメリット

- ・ 生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質を伸ばしていく機会が増える。
- ・ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が上がる。
- ・ クラス内で男女比の偏りが生じにくくなる。

- ・ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の効果が上がる。
- ・ 班活動やグループ分けのパターンが増える。
- ・ 生徒から多様な発言が引き出しやすくなる。
- ・ より充実した部活動が実施できる。

2 学校統合のデメリット

(1) 地域から学校が無くなることのデメリット

- ・ 学校施設は、生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っているが、統合することにより地域コミュニティの核となる施設の一つが無くなってしまう可能性がある。
- ・ 一部の地域から学校が無くなることにより、統合後の学校と地域との関係が希薄化することが懸念される。

(2) 通学区域が拡大することによるデメリット

- ・ 徒歩通学、自転車通学の生徒がスクールバス通学になることにより、毎日の運動量が減少し、体力の低下や肥満が懸念される。
- ・ 通学時間が長くなることにより、家庭学習の時間が減少することが懸念される。

文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」(平成27年1月27日)を参考にしました。